

「故事成語」に親しもう

年

組

番名前

一、次の故事成語は、どのお話がもとになっていますか。線でむすびましょう。

蛇足だそく

* 必要のない物のこと

むかし、酒の入ったつぼをけらい達がもらった。そこで、早く蛇（へび）の絵をかき上げた人がその酒をぜんぶのむことにした。さいしょにかき上げた者は、ひまになり、蛇にはない足をつけ足してしまつたため、「その絵は、蛇の絵ではない。」と言われ、二番目にかき上げた者に酒を取られてしまった。

塞翁が馬さいおうがうま

* 人生の不幸と幸運はよそうできない

むかし、「杞（き）」の国に、天が落ち、地がくずれたらどうしようかと思いなやみ、ねることも食べることもできなかった人がいたという。

画竜点睛がりょうてんせい

* 最後の大事などころに手をくわえてかん成させる

むかし、塞（とりで）の近くに住んでいた老人（翁）は、かつている馬ににげられたが、やがてその馬は別のりっぱな馬をつれて帰ってきた。ところが、今度はそのりっぱな馬に乗っていた老人のむすこが馬から落ちてしまった。しかし、今度は戦争がおこりわか者はみんな兵隊につれて行かれたが、老人の息子はけがのおかげで戦争に行かずに助かった。

杞憂きゆう

* 必要のない心配をすること

虎（とら）が狐（きつね）をつかまえた。狐は「自分分は、天の神様からすべての動物の長になるようにめいれいされている。信じられないのなら、私の後からついてきなさい。」と言つた。動物たちは狐の後にいる虎を見てにげたが、虎はそのことに気がつかず、狐の言葉をしんじてしまった。

虎の威を借る狐とらのいをかきつね

* 力のある者や権力のある者の力を利用していばる

むかし、中国の絵の名人が寺のかべに龍（りゅう）をかいたが、ひとみだけはかかなかつた。「ひとみを入れると、すぐに龍がとんでいってしまうからだ。」とせつ明したが、だれもしんじなかつたので、本当にひとみをかきこむと、たちまちに龍は本物になり、天にのぼっていってしまった。

二、次の会話では、どの故事成語を使ったらいでしょう。

からえらんで、番号を

に書きましょう。

使っている場面

あきとさん「今日、漢字の宿題をやってくるのわすれちゃった。」

なおこさん「だめじゃない。わたしはやってきたよ。一時間もかかったんだから。音読の宿題はわすれちゃったけどね。」

たけしさん「宿題をわすれたことは同じだよ。二人とも



さ。」

あきとさん「さっきの紙きれ、まだ持っている？」

なおこさん『すてて』ってたのまれたから、すてておいたよ。」

あきとさん「わあ、どうしよう。あの紙に、来週の図工で使いたい材料をメモしていたんだ。」

なおこさん「残ねん。」



とは、このことね。」

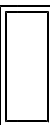
お母さん「今日中に、部屋のそうじをきなさい。」

たけしさん「できないよ。今日はやるのがたくさんあるんだ。」

お母さん「じゃあ、午後から家族でえい画に行く予定だけど、たけしさんんはむりね。」

たけしさん「行けるよ。えい画を見る時間はとれるから。」

お母さん「あなたの話は



しているわね。」

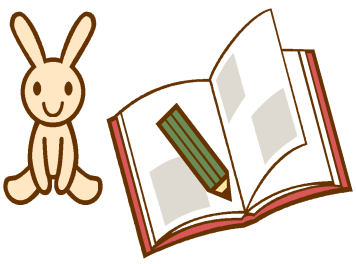
①矛盾（話のつじつまがあわないこと）

②覆水盆に返らず

ふくすいぼん

（ひっくり返した水がおぼんにもどらないように一度やってしまったと取り返しがつかないこと。）

③五十歩百歩（にたりよったりで、大きなちがいがいないこと）



「故事成語」に親しもう (答え)

一、

蛇足だそく
* 必要ひつようない物のこと

むかし、酒の入ったつぼをけらい達がもらった。そこで、早く蛇（へび）の絵をかき上げた人がその酒をぜんぶのむことにした。さいしよにかき上げた者は、ひまになり、蛇にはない足をつけ足してしまつたため、「その絵は、蛇の絵ではない。」と言われ、二番目にかき上げた者に酒を取られてしまった。

塞翁が馬さいおうがうま
* 人生ふこうの不幸と幸運
はよそうできない

むかし、「杞（き）」の国に、天が落ち、地がくずれたらどうしようかと思いなやみ、ねることも食べることができなかった人がいたという。

画竜点睛がりょうてんせい
* 最後の大事などころに手をくわえてかん成させる

むかし、塞（とりで）の近くに住んでいた老人（翁）は、かっている馬ににげられたが、やがてその馬は別のりっぱな馬をつれて帰ってきた。ところが、今度はそのりっぱな馬に乗っていた老人のむすこが馬から落ちてしまった。しかし、今度は戦争せんそうがおこりわか者はみんな兵隊へいたいにつれて行かれたが、老人の息子はけがのおかげで戦争に行かずに助かった。

杞憂きゆう
* 必要ひつようのない心配をすること

虎（とら）が狐（きつね）をつかまえた。狐は「自分分は、天の神様からすべての動物の長になるようにめいれいされている。信じられないのなら、私の後からついてきなさい。」と言つた。動物たちは狐の後にいる虎を見てにげたが、虎はそのことに気がつかず、狐の言葉をしんじてしまった。

虎の威を借る狐とらのいをかきつね
* 力のある者や権力けんりよくのある者の力を利用していばる

むかし、中国の絵の名人が寺のかべに龍（りゆう）をかいたが、ひとみだけはかかなかつた。「ひとみを入れると、すぐに龍がとんでいってしまうからだ。」とせつ明したが、だれもしんじなかつたので、本当ひとみをかきこむと、たちまちに龍は本物になり、天にのぼっていつてしまった。

二、

- | | | |
|---|---|---|
| ① | ② | ③ |
|---|---|---|